

石川光男

## 言葉と光

光があるという。

存在を掬い上げ

一足す一が二〇〇にもなり、

阿弥陀に悪人正機を説くことも出来るという。

言葉の彼方の空無の世界へ、

凡人は乖離する言葉を頼りにして。

コトバがあるという。

言葉の意識が意識性を越えた位相。

把握不可能な空無、思考の断絶の更に彼方へ、

凡人は絶対矛盾する言葉を頼りにして。